

# MG-LAC 季報

## 第7号

2018年6月13日発行

宮城学院女子大学

リエゾン・アクション・センター

(MG-LAC) 内線 268

「やりたいこと」「おもしろいこと」を

自分たちの力で形にしよう！

## ■自主活動プロジェクト 採択決定

学生の自主活動プロジェクトについて、合計 22 プロジェクトより申請があり、採択が決定しました。今年度より、助成の有無によらず、申請したプロジェクトは「自主活動プロジェクト」として、LAC のサポート（研修や広報、機器の使用や相談など）を受けることができます。のべ 357 名の学生が活動を行いますので、顧問の先生方をはじめ、教職員の皆さまのお力添えをいただけますようよろしくお願いいたします。

また、今年度は、教育学部の清水禎文先生にご協力いただき、MG-LAC の学生支援を教育設計評価の観点から、hidden curriculum（隠れたカリキュラム、潜在的カリキュラム）として計測、検証などを行う予定です。

さなぎプロジェクト（大学後援会プロジェクト助成費より助成・新規プロジェクト）

プロジェクト名	代表	概要	顧問
七夜月プロジェクト	安部 入珠 B3	宮城の伝統工芸品“玉虫塗”のしおりの製作・販売	渡部 順一 B
なつむし色プロジェクト	浅沼 留依 B3	宮城の伝統工芸品“玉虫塗”の手鏡の製作・販売	渡部 順一 B
にじいろプロジェクト	熊坂 悠 H3	LGBT 等セクシュアルマイノリティの啓蒙活動	村野 敬一郎 H
リュミエールプロジェクト	佐伯 実香 B2	本学礼拝堂のステンドグラス作者ガブリエル・ロワールの調査・研究、普及	間瀬 幸江 G

てびらっこプロジェクト（大学後援会プロジェクト助成費より助成・継続プロジェクト）

プロジェクト名	代表	概要	顧問
Internatio なる!?	宍戸 ありさ E3	在仙外国人との交流企画の実施	ユリ・コービ E
Sport Are You	内田 真由 F3	学外スポーツチームの栄養サポート等	丹野 久美子 F
SJT@MG	伊藤 優里香 B2	“仙台女子旅”として SNS 発信	宮原 育子 B
Save the Smile	佐々木 夏未 X3	「楽しく、身になる」防災イベントの実施	板橋 夏樹 X
国際交流プロジェクト Branch	加藤 百香 E3	在仙外国人との文化理解を交流企画の実施	田島 優子 E
「しごと旅」プロジェクト	千葉 江里子 L2	小学生向けの職業体験ツアーの実施	市野澤 潤平 B
楽食プロジェクト	浅地 志帆 F2	学生食堂でオリジナルメニューを考案、販売	矢内 信昭 F
国際支援活動 Triangle	五十嵐 加奈 F3	募金活動（中古教科書の販売など）、講演会の実施、フェアトレード商品の委託販売など	八木 祐子 C
算数教具開発プロジェクト	新留 ゆりか X2	小学校の算数の授業で使用する教具の開発	中込 雄治 X
おいしい放課後	太田 彩香 F3	学内料理教室イベントの実施	平本 福子 F

自主活動プロジェクト（助成なし・またはハートフルボランティアなど他の助成を受けて活動）

プロジェクト名	代表	概要	顧問
にこにこキッズプロジェクト	横倉 実可子 J3	岩沼市での子どものあそび場づくりを行う、本学と東北学院大学の2大学連携ボランティア	志村 文隆 J
MGPRプロジェクト	小川 音寧 J4	オープンキャンパスのキャンパスツアー実施	友野 隆成 P
大原小学校ボランティア	小室 佳凜 X3	石巻市立大原小学校の学校ボランティア	戸野塚 厚子 H
Food and Smile!	佐藤 いづみ F3	県内外での防災料理教室や食事指導の実施 (ハートフルボランティア助成)	丹野 久美子 F
Heartful Sweets	諏訪 萌 F3	マクドナルドハウスにて、お菓子作りなど (ハートフルボランティア助成)	平本 福子 F
宮城学院 ゴールデンZクラブ	加藤 知佳 C3 後藤 紗英 C2	ゾンタクラブの学生支部 県内を取材し、日本語と英語で世界に発信	ブレンダ・ハシ B
宮城学院女子大学 さくらレオクラブ	長谷 麻鈴 M4 佐々木 絵理 X3	ライオンズクラブの大学支部 様々な奉仕活動を実施	足立 智昭 D
サークルK 宮城学院女子大学	富田 明莉 F4	キワニスクラブの学生支部 子どもの支援を実施	栗原 健 G

## ■自主活動プロジェクト

### キックオフ研修を行いました

6月2日(土)13:00~15:00に、プロジェクトをスタートさせるキックオフ研修を開催しました。今年度の活動がより充実したものになるよう、自分たちの取り組む意味を見つめ、具体的な目標設定や行動計画を作ることをねらいとしています。

昨年度に引き続き、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」の一環として、東北学院大学地域協働教育推進機構特任教授の松崎光弘先生をお招きし、16プロジェクト33名の学生が参加しました。発表や話し合いを多く取り入れたワークショップに、参加した学生は、「具体的な計画を決めたり、メンバー同士思いを共有できてよかった。このような言語化する機会は大切だと思った。(日文3年)」「目標を数値で具体的に設定するなど、行動計画が少し掴めた良い機会でした。実際に活動し、場合によって修正も図りつつ、1年後なりたい姿に近づけるよう頑張りたいです。(健康教育3年)」と、よいスタートとなりました。

